

イスラ ムにおける崇 行 (2/3) : 外面的崇 行 の形式

5.0

明:

イスラ ムにおける外面的崇 行 の形式とそれによる内面的崇 行 の完遂、そして崇 行 の意 と利益について。

目:[「事崇 行 とその 実践の五ヶ条」とその他の崇 行](#)

より: IslamReligion.com

日 06 Dec 2009

集日 12 Dec 2009

外面的崇 行 の形式

一部の宗教は 史を通して内面的崇 行 の形式に重点を置いてそればかりを 展させ、 代の と共に完全に、あるいは部分的に外面的崇 行 の重要性をないがしろにしました。一方で他の 宗教は、外面的にはっきりと て取れる 式ばかりを し、内面的信仰の を低 させました。しかしイスラ ムでは前述したように、内面と外面の 的区 をしません。内面の状 は外面に れ、外面的な状 や行 は内面への影 をもたらします。内面と外面には明らかな 通が られ、お互いに作用し合う 向があるのです。一 の内的的行 である意 は、それに 合 った姿 や行 へとつながります。また人は内面的にどういう状 にあるのか、たびたびそ の外 から察することが出来ます。例えば人が 望や恐怖の状 にあると、ある の振る舞い や表情によってそれを判断することが出来ます。また逆に、ある の姿 や活 をとること によって、それに 合った内的状 がもたらされるということもまたあり得るのです。

神へと捧げられる可 的崇 行 は、ムスリムの信仰が したものだと言うことが出来ます。なぜならイスラ ムはその教 における究 的真 の信仰を追 者に求めるだけでなく、可 的の 行も同 に要求しているからです。人は救 のためにある の信仰を 持するだけでは十分

“思い起こさせるもの”とも呼ばれるべき神の示（クルアーン）を朗読しつつ崇拝を行ないます。それは神の力と知が常に共にあることを私たちに知らせ、神への意へとくのです。

またムスリムは崇拝によって自己、地域、境のを取り除き、世界に神の言をめるための心意を形成します。神はこのように仰っています：

“?????????????????????????????????????”

同に私たちが崇拝をもって日々を過ごせば、必ず人生の目的と来世が思い起こされるでしょう。そして私たちが神の意思に従って人生を生きること、すなわち神のご悦ばれることの遂行とかれが嫌されることの忌避が促されるのです。

私たちは、崇拝のもつ社会への影響力というものを明に出すことが出来ます。社会とは言わば人の合体であり、各人が精神的、理的に高であれば、社会そのものも同に高なものとなります。神によって常に守られていると感じさせるような理想的社会では慈善に富んだ善行は不可分の性と化し、そして罪は隔され、制限されるでしょう。

一部の人々にとっては、神への崇拝や服行は牢での禁生活や、奴隷制度に似たようなものだと映るかもしれませんが。しかしには、神への崇拝と属状は人をあらゆるの属から解放放つのです。そうすることで私たちは国家や社会への属、家族の束から自由になり、私たちの唯一の主である神をご悦させることが可能となるのですから。これこそが安泰と足をもたらす本当の意味での自由であり、神への属とはその自由をもたらす最大の源なのです。

この事のウェブアドレス：

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/221>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。